

土の香り

「食卓に笑顔の種を届けたい。」

No.32 2017年 100年記念号

ホームページ

www.toyama-nojo.net

お電話、FAXでのご注文・お問合せ

電話&ファックス 0155-60-2110

編集発行:とやま農場 〒080-2106 北海道帯広市美栄町西6線128番地 携帯 090-1648-2100



入植100周年を迎えることができました。

1917年(大正6年)初代 外山仁助が新潟県栃尾村(現 長岡市)より帯広市美栄の地に鍬を下ろし今年で 100年の歳月が経ちました。この間仁助がフサと結婚し、二代目 徳男-京子、三代目 勝則-聖子、四代目 隆祥-暁子と世代を超えて農場が受け継がれてきました。(仁助は写真嫌いだったため生前の姿を記録したものは一枚もありません。)

人力・畜力により始まった開拓時代、森を拓き、河川を埋め立てて鬱蒼とした地力のない 谷地も耕して畑を作ってきました。「農業」という生産行為は自然との共生とは相反するものです。近代化により圃場は四角く整備され、明渠・暗渠などの排水対策が施されて生産性の高い畑になりました。地域では暴風対策として親しまれた防風林のある風景も農地や日照量を確保するために切り倒され年々減っています。畜力はやがてトラクターに代わり、どんどんと高馬力・高性能になっていきました。

2015年は大豊作、2016年は冷害・台風被害を含めた大凶作、そして今年は100年を記念するような豊かな作柄に恵まれています。この昨年の台風の際に流亡した畑を眺めて改めて「土は作れない」と私は思い知



おかげさまで 北の大地に100年

らされました。特に土の大事な要である「腐食」は長い年月をかけて自然に作り出された土を土と呼べる「源」です。化学肥料ではもちろん補うことはできず、また我々が「土づくりに」良い有機物と呼んでいる緑肥や堆肥でも長年蓄積されてきた「腐食」を食い尽くさないための些細な抵抗に過ぎないとのことです。

「客土」と言い流された畑に山土などの新しい土を運び入れることはできますが、生産性のある良い畑にするには何年もの時間やコストと手間がかかります。土地があっても農業はできません。「土づくり」とはずいぶん横柄な言葉だなと思いました。私たちができることはせいぜい「土を保たせる」程度のことかもしれません。次の100年もこの地で美味しい農産物を生産出来るように、今秋もできることを淡々と行っていきたいと思います。 外山隆祥

冷やしあずき(紅白)を新発売!!

100周年を記念し、農場で栽培する小豆「きたろまん」と白小豆「きたほたる」を使用した小豆寄せを発売しました。

丁寧に炊きあげられた小豆をゼリーで包んであり、小豆の風味や 食感を味わえる控えめな甘さが特徴です。この冷やしあずきを初 めて食べたときに、「世の中に多くの小豆製品がある中で、これ ほど小豆をそのままに優しく表現してくれる食べ方はなかなかな い。生産者としても多くの方にこの小豆をぜひ食べてほしい」と 思い、農場の紹介も含めて商品化いたしました。

かねてより小豆でお取引のある徳島県の130年続く老舗株式会社 マルヤ様謹製のOEM商品です。

小豆の品種毎の違いを食べ比べてみたり、紅・白のセットで縁起物としてお祝いの季節にご用命いただければ幸いです。



紅白あずきのジュレ 「冷やしあずき」

家族の横顔

昨年は祖母が他界し、また新居に移り住みました。家族の形は変わりますが経年変化を楽しみます。 皆さんにとっての今年はどんな年ですか?

徳男(87)来年3月には米寿を迎えます。春夏はバイクで秋は自動車で1日数回の畑周りが日課です。

聖子(58)農家民宿のゲストと話すべくボケ防止も兼ね英会話の勉強を始めました。三日坊主になりそうですが

暁子(36)めでたく第1子妊娠中!来春には家族が増える予定です。農場の美味しい野菜で健康妊婦ライフ♪

隆祥(31)30歳限定のセミナー、経営指針の勉強などに参加して30代のベクトルを模索中。

剛士(29) 単身、島根県隠岐の島に渡り、やりたかった漁師として新しいスタートを切りました。

佳裕(27)農業資材を扱う住商アグリビジネスに勤務。秋のフードバレーマラソン(ハーフ)に出場しました。

晶浩(25)札幌の日本キャタピラー合同会社(CAT)勤務。時々の週末や連休には帯広通いをしています。

美利河(24) 晶浩の妻北海道新聞社勤務。親族に向けて近況報告も兼ねたイラスト満載のピリカタイムスを発行。

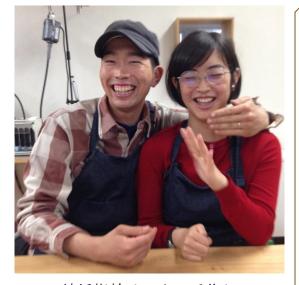
アオの森 プロジェクトが始まりました

農場には35.6Haの畑の他に0.5Haの柏林があります。この柏林は祖父が幼いころから自生しているものです。畑にすることもできたのですが、開拓時代を共に過ごした馬達「アオ」が眠っているため祖父徳男が切り開かずに残しているものです。長年、特段の管理もしていないため笹薮の生い茂る林になっています。

アオの森プロジェクトは、この柏林を農場の100周年を記念して、 笹薮を刈り、100年後には北海道に自生する山野草の生い茂る森に する長期にわたる計画です。根の深い笹薮を絶やすことは並大抵の ことではありませんが、千里の道も一歩からと4㎡から始めました いつの日か皆さんにもご覧頂ける森にできたらと願っています。



アオの森に咲いたオオバナノエンレイソウ



結婚指輪は二人の手作り

☆四男晶浩が入籍しました☆

高校時代、山形県小国町にある基督教独立学園にて出会った二人(高校は男女交際禁止)は、2016年12月21日「いつまでも明日に希望を抱いて生きていこう」との想いを込めて冬至に入籍しました。晶浩は昨年7月より札幌で就職し、新生活が始まったばかりでしたが、美利河さんの7月の職場異動でまさかの帯広転勤に。札幌・帯広と別居生活を余儀なくされています。結婚式&披露宴は、来年2月に美利河さんの母校である東京の国際基督教大学(ICU)で執り行う予定です。二人は、2015年6月に行った隆祥&暁子の菜の花ブライダルでもスタッフとして大活躍してくれました。美利河さん(愛称ぴーちゃん)は書道や絵が上手で、農家のヨメ?!通信ではイラストも担当してくれています。

ニューフェイスとして、今後ともよろしくお願いいたします。

Facebookも更新中!



現在885いいね!(11月1日) 2017年の100周年の節目に 1000いいねを目指しています。 FBページではよりタイムリーな 農場の情報をお届けしています。

編集・発行 とやま農場 外山隆祥 〒080-2106

帯広市美栄町西6線128番地 Tell&Fax 0155-60-2110 メール info@toyama-nojo.net

編集後記

『マイクロプラスチック=大きさ5mm以下のプラスチック』による環境汚染が、各国の研究により世界の地下水に続き海塩からも検出されたとのこと。海洋投棄が主な原因とのこと。健康への影響は判明されていないが我が家の食卓で愛用する職人こだわりの自然海塩も例外とは言えないだろう、、、手作り味噌もこの海塩は欠かせない!この事実にショックは相当だが、作り手にとっては尚更と心が痛む。昨年の台風被害を体験したことで、日本各地で頻繁に起きている地球温暖化による自然災害の凄まじさが身に染みる。どちらも便利さを求める人類の営みの代償である。100年、1,000年~営々と繋がる地球を想う日々の生活でありたい。